曲　江　　杜甫

朝　回　日　日　曲　春　衣
毎　日　江　頭　盡　酔　帰
酒　債　尋　常　行　処　有
人　生　七　十　古　来　稀
穿　花　蛺　蝶　深　深　見
點　水　蜻　蜓　款　款　飛
傳　語　風　光　共　流　轉
暫　時　相　賞　莫　相　違

（通釈）
朝廷から戻ってくると、毎日のように春着を質に入れ、
いつも、曲江のほとりで泥酔して帰るのである。
酒代の借金は普通のことで、行く先々にある。
この人生、七十まで長生きすることは滅多にないのだから、
今のうちにせいぜい楽しんでおきたいのだ。
花の間を縫って飛びながら蜜を吸うアゲハチョウは、奥のほうに見え、水面に軽く尾を叩いているトンボは、ゆるやかに飛んでいる。
私は自然に対して言づてしたい、
「そなたも私とともに流れて行くのだから、ほんの暫くの間でもいいから、お互いに愛（め）で合って、そむくことのないようにしようではないか」と。

第 9 回県西「珊瑚会」

『古　稀　を　祝　う』

平成 23 年 11 月 26 日（土）13：00~17：00
於）ノボテル甲子園　2 階「甲陽の間」
電話：0798（48）5111

『第９回県西珊瑚会』

式　次　第

兵庫県立西宮高等学校
第１２回卒業・学年同窓会

1. 開会宣言	13：00
2. 物故者　黙祷	13：02
3. 代表幹事挨拶	13：05
4. 乾　杯	13：10
5. 会食歓談　（Ⅰ）	13：13
6. 恩師挨拶	14：00
7. 会食歓談　（Ⅱ）	14：30
8. 次期幹事紹介・代表挨拶	15：10
9. 校歌斉唱	15：15
10. 閉会挨拶	15:25
クラス会	15：40

高校三年生

歌手：舟木一夫
作詞：丘灯至夫
作曲：遠藤　実

一、赤い夕日が　校舎をそめて
ニレの木陰に　弾む声
ああ　高校三年生　ぼくら
離れ離れに　なろうとも
クラス仲間は　いつまでも

二、泣いた日もある　恨んだことも
思いだすだろ　なつかしく
ああ　高校三年生　ぼくら
フォークダンスの　手をとれば
甘く匂うよ　黒髪が

三、残り少ない　日数（ひかず）を胸に
夢がはばたく　遠い空
ああ　高校三年生　ぼくら
道はそれぞれ　別れても
超えて歌おう　この歌を